

ブラキムラとめぐる！ 仙台城下町ボヤージュ 【2026年2月3日放送分 鹿落坂／越路】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 今回は、広瀬川にかかる霊屋橋から歴史散歩スタートです。霊屋橋は昭和10年の竣工で、実は広瀬川にかかる現役の橋では最も古いものです。伊達政宗公の没後300年に間に合わせるべく、また昭和恐慌による失業者対策も兼ねた突貫工事だったそうです。よく見ると、ずいぶん年季が入っていますよね。
- 霊屋橋の西詰からT字路を向山方面に登って行く坂が、鹿落坂です。鹿が落ちると書いて「ししおちざか」と読みます。文字どおりシカやイノシシが出る山で、江戸時代には大規模な巻き狩りが行なわれました。地質学的なタイムスケールになりますが、眼下では今も広瀬川が崖を削りながら流れています。



- 坂の上、今月の辻標には「鹿落坂／越路」と刻まれています。越路は藩政時代以前、江戸方面から仙台に至る「東街道」と推測されるルートのひとつです。根岸方面から来た旅人は、現在の太白区向山の崖上を歩いて鹿落坂を下り、当時は橋がかかっていなかったその先の広瀬川を歩いて渡り、領内に入ったと考えられます。奥州街道が城下に整備されたのは、仙台開府以降の事なのです。



- さて、ここまで来たらブラキムラさんに「八木山」の話も聞いておきましょう。「八木山」と刻まれた辻標はないのですが、ここは紅久を経営していた豪商・八木家が大正年間に買い取り、市民の健康増進のために公園や野球場を整備した場所。
仙台城のある青葉山に接していたため、江戸時代は藩直轄、一般人は立入禁止の山でした。八木家が買い取るまでは「越路山」と呼ばれていたなんて、25年以上勤務していて知らなかったです、はい(汗)。八木家は開発を終えた山を昭和9年、市に寄付したのです。

〈文・佐々木淳吾〉